

第1学年 英語科学習指導案

1 単元名 Unit 7 サンフランシスコの学校（NEW HORIZON ENGLISH COURSE 1）

2 単元について

(1) 教材観

本単元では、サンフランシスコ在住のナンシーが孫のベッキーにビデオレターを送るために、アメリカの中学生にインタビューを行う場面が取り上げられている。ナンシーとアメリカの中学生メイとビンのやりとりを通してアメリカの学校生活を知ることができ、日本の学校生活との違いに気付かせることができる。また、教科書の対話文が、単元ゴールとして設定した“Which is your favorite, Japan or America?”を主張するためのモデル文となる。

言語材料としては、疑問詞（who / what time / what+名詞 / which）が登場する。これらの疑問詞を使うことにより、質問したり聞き返したりする表現が可能になる。

(2) 生徒観

英語学習への関心が高く、授業中の活動に積極的に取り組む。「学び合い」の学習では、丁寧に教え合う姿がよく見られる。教科書で扱われる英文も徐々に長くなり、今後読むことの指導をどのように行っていくかが課題となる。「単語や文章を読むことが難しい」「発音ができない」などの手立てとして、音読も含め、読みの指導の更なる工夫を図る必要がある。

(3) 指導観

指導にあたっては、帯学習のTalk! Talk! Talk!(Useful Expressionsの定着)を通した英文のinputを行うことで、音読活動を十分に行い、基礎的な単語・熟語の定着を図る。音読活動を通して英文の型に慣れさせ、自分の意見を述べる練習をさせる。

本単元のゴールは、「日本とアメリカの違いを知り、自分がどちらを好むかについて理由を付けて主張できる」ことである。アメリカと日本の違いに焦点を当てた発問を行い、本文の情報を整理しながらアメリカの文化を読み取らせ、日本の文化との違いに気付かせる。発問構成を工夫することで、生徒は自分の立場から文化の相違を見つめ、それぞれの良さを考えるであろう。生徒の主張の理由に多様性をもたせ、豊かな表現を引き出したい。

3 単元の目標

- (1) 日米の文化の違いについて、自分の意見を理由も含めて英語で主張する。
- (2) ペアやグループ活動において、積極的にコミュニケーションを図る。
- (3) 教科書本文を聞いたり読んだりして、内容を正しく理解し、表にまとめる。
- (4) 疑問詞（who / what time / what+名詞 / which）の運用についての知識を身に付ける。

4 評価規準

ア コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての 知識・理解
様々な形態での活動で、積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。	既習の言語材料を使って、日米の文化の違いについて、自分の意見を英語で主張することができる。	教科書本文を聞いたり、読んだりして、内容を正しく理解し、情報を表にまとめることができる。	疑問詞（what time / what+名詞 / which）の運用についての知識を身に付けている。

5 単元計画（全10時間 本時6/10）

時間	○ねらい ・学習活動	評価規準	評価方法
1	○疑問詞 who の文の形・意味・用法を理解する。 ・ who を用いた文の構造を知る。 ・ ペアワークにより，基本文の定着を図る。	エ ア	後日ペーパーテスト 行動観察
2	○Part 1 の内容について理解する。 ・ 発問に基づき，日米の文化相違表に情報を整理する。 ・ 音読活動により，更に理解を深める。	ウ	ワークシート
3	○疑問詞 what time の文の形・意味・用法を理解する。 ・ what time を用いた文の構造を知る。 ・ ペアワークにより，基本文の定着を図る。	エ ア	後日ペーパーテスト 行動観察
4	○Part 2 の内容について理解する。 ・ 発問に基づき，日米の文化相違表に情報を整理する。 ・ 音読活動により，更に理解を深める。	ウ	ワークシート
5	○疑問詞 what+名詞の文の形・意味・用法を理解する。 ・ what+名詞を用いた文の構造を知る。 ・ ペアワークにより，基本文の定着を図る。	エ ア	後日ペーパーテスト 行動観察
6 (本時)	○Part 3 の内容について理解する。 ・ 発問に基づき，日米の文化相違表に情報を整理する。 ・ 音読活動により，更に理解を深める。	ウ	ワークシート
7	○疑問詞 which の文の形・意味・用法を理解する。 ・ which を用いた文の構造を知る。 ・ ペアワークにより，基本文の定着を図る。	エ ア	後日ペーパーテスト 行動観察
8	○Part 4 の内容について理解する。 ・ 発問に基づき，日米の文化相違表に情報を整理する。 ・ 音読活動により，更に理解を深める。	ウ	ワークシート
9	○Unit 7 の総まとめをする。 ・ 2 国間の文化の違いを見直し，どちらを好むかについて理由も含めて意見を書く。	イ	ワークシート
10	○主張大会“Japan vs America”をする ・ 日本文化とアメリカ文化のどちらを好むか，自分の意見を発表する。	ア イ	後日面接テスト

6 本時の目標

教科書本文の内容を読み，日本とアメリカの文化の違いを表にまとめることができる。

(外国語理解の能力)

7 展開（ **事実発問** ・ **推論発問** ）

過程	学習内容及び 学習活動	○教師の指導・支援 ●活動が十分でない生徒への手立て	評価方法
導入	1 あいさつをする。 2 ペアワークによる QA を行う（ワークシート1）。 3 教科書（Part 1～2）を音読する。 ・一斉→ペアで本文の内容を復習する。	○相手が答えやすいように、ヒントを出し合うよう声掛けをする。 ●ペアでの音読につまずいている生徒には、机間指導で個別に支援を行った。	
展開	4 本時のめあてを知る。	○内容を想像しやすいように、デジタル教科書のイラストを電子黒板に提示する。	
	めあて： 対話文や絵を参考にして、日本とアメリカの文化の違いを表にまとめよう！		
	5 教科書 Part 3 本文の読解を行う。 ・Part 3を黙読する。 ・全体で内容確認(T/F や QA)を行う。	○分からない語に印を付けるように指示する。（ワークシート2）。 ●確認シート（ワークシート3）や辞書を参照するように個別に声掛けをする。 ○事実発問により、本文の正確な理解を促した。	ワークシート
	6 ペア活動 ・教科書 Part 3 の会話文を読んで、表（ワークシート5）にアメリカの学校生活を記入する。 ・アメリカと比べた日本の生活について考え、表に記入する。 7 グループ活動	○文化について、内容を想像しやすいように、絵や図を電子黒板に提示した。 ○推論発問により、生徒のより深い思考を促す。 ●机間指導を行い、思考のヒントとなるような声掛けをする。 ○社会科資料を各グループに配付する。	ワークシート
8 音読練習（Part 3）（ワークシート4）	○場面を想像しながら音読するように声掛けをする。 ●音読シートの難易度に合わせ、自分のペースで練習するよう声掛けをする。		
まとめ	9 振り返りをする。 10 本日の学習内容をBノート（自学用ノート）に書いて練習する。	○活動全体を振り返り、今後の見通しをもたせる。 ○本時で使った表現を書いて練習させる。	

8 本時の評価

評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書本文の内容を正しく理解し、日米の違いを文化比較表に整理することができる。 ・Teacher Talk や絵を参考にして、アメリカの学校生活の背景を推測して、表に記入している。（外国語理解の能力） 		
判断する目安 （判定基準）	十分満足できる状況（A）	おおむね満足できる状況（B）	努力を要する状況（C）
	本文の内容に加えて、Teacher Talk や絵から分かった日米の文化比較を正確に表にまとめることができる。	本文からアメリカの情報を抜き出し、表にまとめることができている。日本の文化を考え、記入することができる。	（B）に達していない、もしくはアメリカの情報を0～5個選択することのみできている。
→（B）、（C）と判断した生徒への支援	→ペアでの話し合いを促したり、辞書を用いたりするよう指示する。		→本文内にあるキーワードや単語の意味を教え、表にまとめることができるよう指示する。 →日本での生活について考えるよう促す。
評価方法	ワークシートの記述		